

【全体概要】

愛知県東三河地域のキャベツ産地では、全自動移植機の普及により規模拡大が進み二期作も増えているが、連作による土壌病害など生産不安定のリスクが高まっている。

そこで、キャベツと組み合わせが可能なタマネギ栽培に、この全自動移植機を活用することにより、生産者の機械導入の負担を抑えたうえで、キャベツの生産性を維持しながら、タマネギ産地の発展を図る。

新品種・新技術等の概要

- タマネギ栽培に対応する一条植え全自動移植機
- 200穴セル成形苗を利用



タマネギの株間に対応

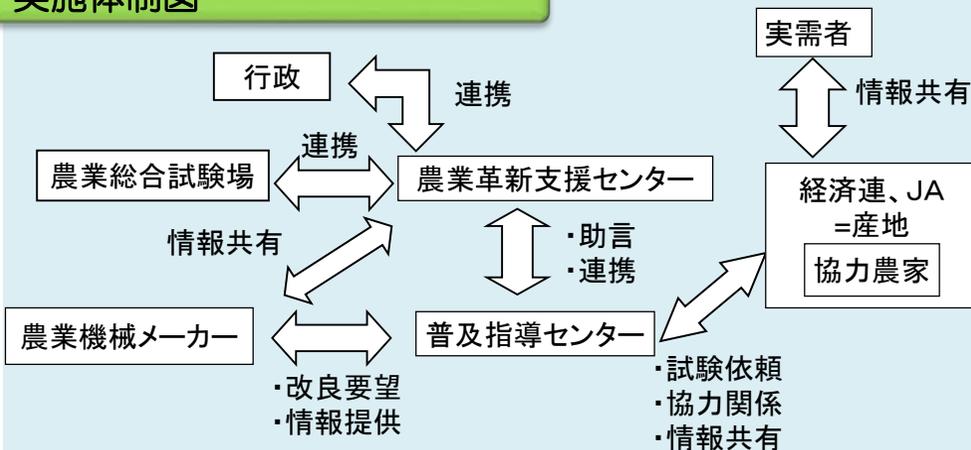


一条植えのタマネギ栽培

主な取組内容

- 200穴セルトレイで育苗したタマネギ苗を、キャベツ用1条うえ全自動移植機を改良し、定植可能か検証した。
- セルトレイの育苗培土の違いが収量に及ぼす影響を検討した。
- セルトレイでの育苗日数が定植精度に及ぼす影響を検討した。
- 定植時期の検討を行った。

実施体制図



実績と今後の展開

- 200穴セル成形苗を用い、キャベツ用の1条うえ全自動移植機を改良したところ、タマネギでも移植が可能であった。
- 育苗培土や定植時期を検討したが、培土による収量差はなく、2月までに定植すれば良いことを明らかにした。
- 育苗日数により、定植精度が異なった。
- マニュアル及び普及に関する手引書を作成した。
- マニュアルや手引書を用い、普及促進する予定である。